

大 自 然 × ビジネス



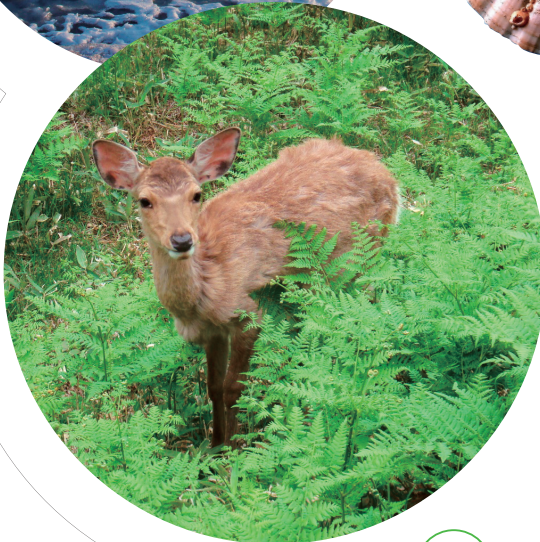
〉 ワクワクがギッシリ! 〈
〉 自然資源の宝庫が 〈
〉 キミを待っている!! 〈

LET'S OPEN!!

農 東京農業大学

生物産業学部 (北海道オホーツクキャンパス)

自然資源経営学科



自然資源 natural resources

鉱物資源(エネルギーを含む)
生物資源(作物・動物)
河川、湖沼などの水
気候、気象、景観

人間生活や社会にとって、健全な自然生態系や環境を維持することで、
農業をはじめとする第一次産業(漁業・林業)や関連産業(食や観光)が成立している。

**当学科では、大地・森・海などの自然資源を活かして
環境共生と地域ビジネスを実践的に学びます**

農大で唯一
「経営学士」の
学位を授与

【オホーツクで自然資源経営学を学ぶ意義】

- 1 良質な自然環境と
自然資源(生産原料)の存在
- 2 裾野の広い生物産業ビジネス
(自然→生産→加工→流通・ビジネス)
- 3 経営基盤に優れた1次産業、
自然と調和し環境に配慮したビジネス

ここには自然環境、生産から商品開発・販売までビジネスモデル全体をリアルに体験できるフィールド環境がある!!

自然資源経営学科 学びの実例

Example 01 オホーツクにおける 鳥獣利活用の実態を学ぶ

北海道オホーツクキャンパスにもなじみのある鳥獣を対象に、
その産業的・商業的価値よりどのように地域活性化につなげ
るか? つなげられるか? を現場への視察から考えます。



エゾシカ捕獲の仕掛け農の中



エゾシカ捕獲の仕掛け農の中に入る様子



エゾシカ捕獲の仕掛け農の中



エゾシカの養鹿と加工品開発に取り組む知床エゾシカファームの見学

着眼点

環境保全+新たな地域ビジネスの創出



地域資源の価値の見直しを通じて、
新たな地域ビジネスを創出する

Example 02 学生自ら 生産→加工→ビジネス(販売) を実践する

文系の学科だと、作物を作ったり、加工品開発ができないというわけではありません。自然資源経営学科の学生は研究室の活動やサークル活動を通じて、実際に野菜を栽培・加工・販売を通じて、農業の6次産業化を実践しています。



畑の開墾作業



学生で耕した畑と学生たちで設置したハウス+収穫の様子



バジルソースづくりの様子



収穫した野菜

着眼点

実際に農業、加工品開発、販売の体験を通じて、大学で学んだことを実践する

実学主義の体現

Example 03 体験型観光を推進する Connectrip(コネクトリップ) との連携

オホーツク地域には、豊かな自然資源に基づく地域産業、地域資源や観光資源を用いたビジネスが展開しています。そのなかで、地域が歩んできた歴史や文化、農業や観光業などの地域産業をconnect(コネクト)し、新しいtrip(旅)を創造し、四季を通じて体験型観光を推進するConnectrip(コネクトリップ)と連携した実践的な学びを行っています。



例えば

例えば、少人数のゼミを単位に、地域食材(オホーツク産小麦粉、海産物)を活用したピザづくり体験を通じて、新たな商品・サービスの提案をしたり、地域活性化のための方策を実践的に学びます。



学生の実践的学びやチャレンジを教員、地域企業で応援・サポート

- オホーツクには、地域に根ざした企業活動を行っている事業者や農業の6次産業化に取り組む生産者も豊富に存在します。
- 少人数ゼミの小回りの良さを活かして、地域と連携した実践的な学びを提供します。

4年間の学びの特徴

少人数制のゼミナールでグループワーク

幅広い問題関心を育てる

- 1年次 オホーツク地域の自然や産業、歴史などを体験する実習や基礎ゼミナール
- 2-3年次 専門科目の修得とともに、「現場」重視のフィールドワーク
- 4年次 必修卒業論文に取り組み、問題解決と考え抜く力を付ける

- 必修／ゼミナールを基礎単位とした少人数制で討論とコミュニケーション力を身につけます
(1年次は基礎ゼミナール、2年次からは希望する研究室・ゼミに所属します)
- フィールドワークと現場体験を重視し、そこから解決すべき課題を発見
(生物産業学実習、自然資源経営学実習や所属ゼミでの現地研修など)
- 選択／自然資源経営学実務演習(一)(二)(三)
オホーツクの自然資源やフィールドを活用した多様な実践プログラムを選択して、1年次から参画できます
フィールド活動を通じて実践的な課題に向き合い、4年間の学びの集大成として卒業論文に取り組み社会で通用する力を伸ばします(読解力、論理的思考力、情報収集と分析力、問題解決力、プレゼンテーション力を鍛えます)

4年間を通じてフィールドワークとゼミで地域の「現場」を学びます



オホーツクの歴史
網走監獄博物館見学



知床世界自然遺産で
観光産業と「環境共生」を学ぶ



湧沸湖・水鳥湿地センターで
動植物の生息環境を学ぶ



農産物の流通・加工を担う
JAの施設を見学

学科カリキュラム

- 必修科目(選択必修科目含む)
- 選択科目

1年次

- 自然資源経営学実習
- 自然資源経営学概論
- 経営学総論
- ミクロ経済学
- ネイチャーマネジメント
- 企業経営学
- 簿記
- 基礎ゼミナール
- 法律学
- 自然資源経営学実務演習(一)

2年次

- 財務会計論
- 経営管理論
- マーケティング論
- マクロ経済学
- 森林資源機能論
- 自然資源経営学ゼミナール(一)
- 環境保全論
- 環境経済政策論
- 地域活性化システム論
- 空間情報システム論
- 地域環境ビジネス論
- 地域産業創成学
- 農業経営経済論
- 統計学
- 哲学
- 民法
- 自然資源経営学実務演習(二)
- 社会調査論
- 生物産業経営史
- 経営組織論

3年次

- 自然資源経営学ゼミナール(二)
- ネイチャー・ツーリズム論
- 森林資源育成学
- 水圏環境保全学
- 人的資源管理論
- 財務諸表分析
- 自然資源経営学実務演習(三)
- 水産資源環境学
- 管理会計論
- 水産資源生物学
- 財務管理論

4年次

- 卒業論文作成演習
- 卒業論文

起業

ビジネス
展開

学びを活かして地域で活躍中!

当学科出身の卒業生たち



横井 大輝さん
(2020年卒業)
(株)大地のMEGUMI 副社長
卒業後、地域おこし協力隊を経て農業生産法人に就職し、副社長を務める傍らサウナ事業を立ち上げるなど新しい農業ビジネスを展開。

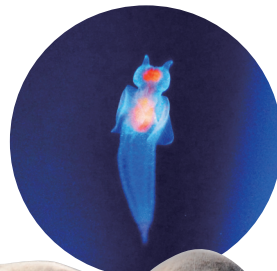


笠井 文考さん
(1996年卒業)
知床アルパ(株) 代表
環境共生型ニューツーリズムに取り組むネイチャーガイドとして、北海道・知床で起業。本学科のネイチャー・ツーリズム論を非常勤講師として担当。



尾村 敦司さん (1992年卒業)
株式会社 菜匠／深川フーズファクトリー 代表取締役社長
野菜生産者とスーパーをつなぐ流通ビジネス「菜匠」を栃木県で起業。さらに農産物を加工する会社「深川フーズファクトリー」を北海道で起業。年商約60億円、従業員・パート労働者100名以上を雇用して地域経済社会に大きく貢献。東京農大経営者フォーラム2015では、本学科初の経営者大賞を見事に受賞!!





持続可能なビジネス創出と
地域経済の活性化を目指す

3分野・5つの研究室

環境共生

自然資源 + 資源管理のガバナンス

ネイチャー・マネジメント・ツーリズム分野

地域経済循環の再構築

農林漁業・地域企業の発展 + 地域資源活用

地域産業経営分野

新市場創出

マーケット・イン + 6次産業化のビジネスモデル

新市場創出分野

ネイチャー・マネジメント・ツーリズム分野

ワイルドライフ・マネジメント・ツーリズム研究室

学びの目標

- 大自然をフィールドに地域資源の保全・利用を学ぶ
- 自然環境を理解し、人と自然の共生・環境に配慮した農漁林業の在り方を目指す。
- 自然資源を活かしたツーリズムを体験し、マネジメンツの手法を学ぶ

卒論テーマ

- 公共財としての景観を利用した地域活性化
- 地方における訪日外国人観光客誘致の取り組みに関する考察
- スキーリゾートの未来を施設・土地利用の観点から考察
- 衛生とドローンの融合による農業の可視化



地域産業経営分野

地域企業経営研究室

学びの目標

産官学連携で地域資源を活かす

- オホーツク地域の活性化
- 地元企業との商品開発
- 地域と企業のWin-Win関係

卒論テーマ

- エゾシカの皮を利用した事業規模拡大の可能性
- 網走市における地域創生と生物産業学部への役割に関する一考察
- 地域におけるロケ支援の現状と課題



生物産業ビジネス研究室

学びの目標

生物資源と地域産業の「共生」による地域創生を追究

- 農林水産業を中心とした生物産業の発展
- 生物資源の保全と持続可能な利用に向けた仕組みづくり

卒論テーマ

- アスパラガス栽培が農家経営に与える影響に関する調査研究
- 満洲湖および藻琴川流域における土地利用変化に伴う生態系サービス評価に関する研究
- CVMによる「ゼニガタアザラシと地域の共生」に対する経済的価値評価
- 知床国立公園における車輛規制に対する潜在的利用者の意識に関する調査



新市場創出分野

流通・マーケティング研究室

学びの目標

グローバル視点の流通・マーケティング戦略で市場創出商品流通について市場、流通システム、小売業等の諸問題と市場分析や需要創造活動のマーケティングを研究対象としています。具体的には第一次産品を中心とする商品の流通システムや市場の分析に関する研究や地域ブランドの創出、環境、観光マーケティングなどの地域資源や街づくり、人材育成を活かす戦略について理論的かつ実践的に研究をしています。

卒論テーマ

- 釧網本線を観光資源とするツーリズムの考察
- 生産者と消費者をつなぐ農産物直売所のあり方に関する一考察
- 網走市周辺地域における移住者が好む定住地環境に関する分析
- 加工食品における中小企業の海外輸出マーケティング



6次産業化研究室

学びの目標

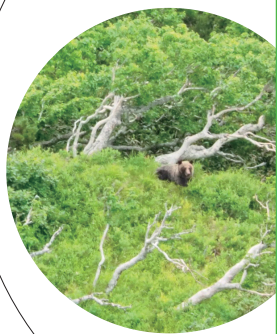
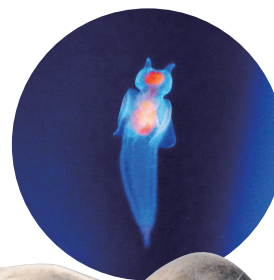
自然資源を土台とした6次産業化で地域ビジネスを探究

生産ー加工ー流通ー消費によるアグリ・フードシステムの理解を基本として、新たな付加価値の創出やネットワークの構築による6次産業化のビジネスモデルと地域全体の活性化について理論的・実践的に追求します。

卒論テーマ

- 北海道における6次産業化の現状および加工・観光農園・農家レストランの動向に関する比較研究
- 水田の有効活用と飼料自給率向上に向けた飼料用米の普及に関する研究
- 下川町の人口減少傾向と林業1ターン者による雇用創出に関する調査・研究





農 東京農業大学 北海道オホーツクキャンパス

生物産業学部 自然資源経営学科

〒099-2493 北海道網走市八坂196番地



ACCESS

女満別空港まで 札幌から 45分
東京から100分
名古屋から110分

網走駅よりバスで30分
女満別空港より車で20分

東京農業大学北海道オホーツクキャンパス 入試課

TEL 0152-48-3814 FAX 0152-48-2246

E-mail nyushi01@nodai.ac.jp

自然資源経営学科ホームページ

https://www.nodai.ac.jp/academics/bio/o_bus/

